

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ) ひまわり
所在地	伊予市双海町大久保字石の久保甲974番地8
自己評価作成日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長をモットーに炊事・洗濯・掃除など、利用者が今まで当たり前にしてきたことを、お互いに助け合いながら生活を共にしていくことを大切に考え、支援しています。利用者一人ひとりの意見を尊重し、本人らしく穏やかな生活が送れるよう適切なケアを心がけています。山と海に囲まれた恵まれた自然環境の中で、利用者とスタッフで、畑で時期の野菜を育て収穫したり、海辺を散歩したりと季節を感じながら毎日を送っています。  
開設2年目、職員も少しずつ経験を積み重ね成長してきました。今後も働きながら学べる職場の環境作りに努めスキルアップを図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設2年目であるが、運営法人は他の事業所の運営経験を活かし、医療的な支援を取り入れ、利用者に落ちつきのある生活が提供されている。近くに医療施設は少ないため、協力医から月2回の往診を受けており、利用者や家族等が安心して過ごせるよう支援している。また、地域に初めて開設された地域密着型サービス施設であるため、管理者は、認知症の理解を広げることや地域の社会資源となる気持ちが高く、地域住民との関わりを持つように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 徳田 茂美

評価完了日 平成25年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>運営理念のもと、住み慣れた地域でゆったりと自分らしい生活が送れるよう、地域に密着した暖かいホームを目指しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が「自分らしく」生きることを事業所の理念として、管理者は職員と共に理念の必要性や重要性を理解し共有している。また、地域とつながることを理念に掲げており、過疎化や高齢化が進む地域を活性化させる取組みの実践をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>地域の小・中学校や公民館の様々な行事に参加をさせて頂いています。地域の草刈りや道路整備にも、職員が積極的に参加し、地域の方々との交流に努めています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域で初めての事業であることから、開設当初から地域に「グループホーム」への理解を求めることに力を入れている。また、散歩時の挨拶や道路清掃等を行っていることで、近隣住民との距離が少しずつ距離が縮まっていることを実感している。地域行事の復活へ関わるなど交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々の見学・訪問・相談など気軽にいただけるような環境作りに努めています。ホームのイベントに招待し、認知症の方への理解を深めて頂くと共に支援の方法を見て頂いています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、二か月に一度ご家族・役所関係者・地域関係者の方々に参加を頂き、利用者様の活動報告や、高齢者相談員による講演・消防署職員による救命救急と蘇生術の指導などを議題に開催しております。参加者からの意見は出来る限り運営に活かせるよう取り組んでいます。当日欠席のご家族には、後日議事録を送付し報告しています。	
			(外部評価) 管理者は、運営推進会議を地域住民に事業内容の理解を得る機会として考え、企画運営を工夫している。また、高齢者福祉や介護の知識を広めるため、講演会や勉強会などを一緒に開催し、地域の社会資源としての役割を担えるように取り組んでいる。	会議の目的である利用者のサービス向上の実践のために、今後の会議運営には、参加者が利用者とは直接的な関わりをもつ時間を取り入れ、出された意見をケアに反映させることを期待したい。職員には会議の運営や進行を経験してもらい、議題にバリエーションを増やす取り組みも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加を頂き、ホームの実情や取り組みを伝え、意見やアドバイスを頂き協力関係を築くよう努めています。	
			(外部評価) 旧行政区で初めてのグループホームであるため、市担当者からは、社会福祉資源として期待されている。管理者は事業所の役割を理解しており、市担当者とは積極的に連絡を取り、より良い協力関係が築けるように取り組んでいる。さらに地域包括支援センターとの関係づくりにも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束マニュアルを作成し職員は正しく理解し、ケアに取り組んでいます。夜間以外は玄関を開放し、自由に出入りが出来るようにしています。現在対象者おりません。今後も、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援して行きます。	
			(外部評価) 事業所は、ユニット間がリビングでつながっており、利用者全員を相互の職員で見守ることができる。不安のある利用者にも迅速に対応することができ、職員の関わりにゆとりが感じられる。精神的な拘束にも配慮があり、玄関の施錠を含めて、身体拘束ゼロのケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成し、研修等への参加を促しています。身体的・精神的虐待について職員間で話し合う機会も作っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修への参加を促しておりますが、職員一人ひとりの理解度は不十分であるため、引き続き勉強会などの機会を作っていきたい。現在対象者はありませんが、今後、必要となれば関係者と連携を取りながら支援して行きたい	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約・改定時には、十分な時間を確保し説明をしています。ご本人・ご家族の不安や疑問に思う事を聴き取り、不明な点が残らぬように努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の設置はしていないが、すべてのご家族にハガキにて運営推進会議への参加をお願いし、意見・要望等を聴ける機会としています。面会時にも声掛けをさせて頂き、その内容について職員間で話し合い解決するように努めています。 (外部評価) 職員は地域から採用されている人が多く、利用者家族の訪問も多く、スムーズに話し合いが行われている。管理者と職員は話がしやすいよう傾聴する姿勢を心がけている。管理者は、利用者のサービス向上のために、家族等とも協力体制づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>主にスタッフ会を利用し、職員からの意見や提案を聞く機会としています。スタッフ会以外にも、代表者・管理者は職員個々が気軽に意見・提案が出来る環境作りに努め、意見・提案は出来る限り運営に反映しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、介護現場の経験から「事業所の運営は職員と共に行うべき」と考えており、普段から職員と話し合う時間を大切にしている。男性職員が多い事業所で、意見や提案を反映させており、利用者のサービスの向上のため積極的に取り入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は職員個々の努力や勤務状況を把握し、やりがいのある、職場作りに努めています。勤務時間や休日の希望を聞き取り、出来る限り職員の希望に沿った働きやすい体制になるよう努めています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>様々な研修への参加を促し、研修を受けた職員はレポートを回覧し、他の職員は得た知識を伝達するようにしています。また、毎月1回看護師による内部研修を実施し働きながら学べるようにしています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム協会に加入しており、研修等に参加しています。研修に行った際、他の事業所の方々と交流させて頂き、サービスの向上に取り組んでいます。また同じ地域の施設の行事に参加し活動内容を勉強させて頂いたりしています。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居受付の段階で、ご本人とご家族にホームを見学して頂き、話をすることで、不安や要望の聞き取りをしています。実際に利用者さんと触れ合ってもらい、ホームの雰囲気や暮らし方を見て頂いています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の要望・不安に思う事を親身になって、聞くようにしています。ご家族とのコミュニケーションを大切にし、遠慮なく話して貰えるよう雰囲気作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に聞き取った情報や、医療関係者・担当ケアマネからの情報を基に、ご家族を交えて担当者会議を開き、必要としている支援を見極めるよう努めています	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「家庭の延長」をモットーに家事・掃除・畑仕事など、利用者様が出来る事をして頂き、難しくなった事を、職員が一緒になってやっています。利用者様同士が助け合う場面も見られ、生活を共にする者同士、良い関係を築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) かかりつけ医の受診をお願いしたり、帰宅願望がある方は、家族に電話をすることで、落ち着かれる。職員でどうすることも出来ない場合、ご家族に協力を頂き、共に本人を支えていく関係を築いています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のお祭り文化祭などに参加し、顔なじみの方と交流できる機会を設けています。地元の方が多く集まる場所へ積極的に参加しています。反対に毎年年末に、ホーム主催の餅つき大会を開催し地域の方をご招待しています (外部評価) 事業所の近くに自宅のある利用者は、自宅を訪れるなど馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。自宅が遠い利用者は、知人や友人の訪問が少ないため、事業所周辺が馴染みの場となるように、買い物や散歩の機会を多く持ち、利用者の新しい関係づくりを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルは、時々見られますが、職員が中に入る事で、孤立することなくお互いが穏やかに過ごせるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も必要に応じて連絡を取ったり、ご家族と会った時には退去後の様子を伺うように心掛けています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 支援して行く中で、ご本人の思いや希望を再確認し、ご本人らしい生活が送れるよう、決して無理強いしないケアを心がけています。 (外部評価) 職員は、理念の一つである「自分らしく」を実現させるために、利用者の好きなことや趣味を始め生活歴を聞き把握している。また、引き継ぎ時に話したり、申し送り書に記入したりして、職員間で共有している。職員が思いや意向を把握し、サービスに反映させており、利用者の安心した表情がみられる。	職員はキャリアを積み上げて来ている時期のため、職員間で利用者情報の共有化を再確認することが求められる。利用者の生活歴を職員が書き出し、それを全員で確認し合うなどの取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、本人・ご家族からの情報を聞き取り、入居後の気づきも引き続き記入して行き、職員同士が共有できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態の変化等が気づけるよう、注意深く観察することを心がけています。変化が見られる場合には、職員間で話し合い、その方の現状の把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>担当者会議やミーティングを利用し、利用者個々の現状について、意見を出し合いご家族からの意見・要望も聞き、介護計画を作成しています。目標達成にむけて、毎月モニタリングを行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ケアプランは、管理者や計画作成担当者を中心に立案されケア会議を開催し作成している。また、家族や利用者の希望をできるだけ取り入れている。担当職員の振り返りをもとにモニタリングを行い、ケアプランの見直しをしている。</p>	<p>介護日誌から抜き出したケアプランに沿った内容でモニタリングを行い、その達成率を確認するなど客観性のある取組みを望みたい。話し合いを重視した現行のモニタリングに記録による客観性を付加することで、モニタリングの整合性が向上することに期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>開設直後に比べると、状態の変化や、気づきなど記入が出来てはいるが、不適切な表現が見られるため、個々に指導をしています。記録の書き方については外部研修に参加したり、引き続き指導を行っていきたい。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>デイサービスなどの利用が出来ないため、定期的にボランティアの方を招き、歌や踊りを披露して頂いてます職員間で役割分担をし、利用者個々の得意の事や好みを把握し、やりたいことが出来るよう対応しています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>地域在住の職員が多くおり、常に地域での催し物の情報が得られる為、積極的に参加し、馴染みの方との交流を兼ねて、ホーム以外での楽しみを提供しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科医月2回の往診、歯科医は必要に応じて往診してい ます。定期的な外科等の受診はご家族にご協力いただ いています。緊急時には協力医からの紹介状をお渡し し、適切な医療が受けられるよう支援しています。  (外部評価) 月2回事業所の協力医の往診があるため、利用者のほ とんどがかかりつけ医としている。近くに医療機関が 少ないため、日常的な健康管理は看護職員が行ってお り、早期に適切な医療機関を受診できるよう支援して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム看護師は24時間オンコール体制を取っており、 急変時にすぐ駆けつけられるようにしています。職員 は、利用者様に異変があった時は、すぐ看護師に報告 し適切な看護が受けられるよう支援しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際、医療機関と連携を取り、ご家族了解のもと 情報交換をし、介護支援専門員を中心に、退院を含め た今後の方向性について話し合いをしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り体制は整えているが事例はない。終末期の支援 として、早い段階で協力医を交え、ご家族の意向・要 望を確認し看護師を中心にチームで支援して行くよう 努めます。また、職員の看取り介護の知識を深める 為、看護師による内部研修も実施しています。  (外部評価) 家族の強い希望で、現在終末期ケアに取り組んでい る。医療的なケアは看護職員が支援しながら、かかり つけ医の協力を得て実践している。医療関係者との連 携体制の重要性を再認識しており、高齢者ケアの難し さとやりがいを感じながら支援をしている。	職員は見守ることの難しさ大変さを実感しており、 また不安も持ちながら支援している。事業所ではター ミナルケアについて会議を重ねているが、他の事業所 などの体験談を聞くことや介護職員の向き合う心構え についても話し合いを行うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも対応できるよう努めています。消防署による緊急時の応急処置・心肺蘇生術等の勉強会を実施するなどしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、様々な事態を想定して、年2回消防・防災訓練を実施しています。本年度は6月に消防署、12月に地元消防団の協力のもと実施しました。災害時の職員の役割表・連絡網を作成し、避難時の水や米などの備蓄も徐々に行っています。 (外部評価) 消防の立ち入り検査も受け、細かなことも改善を行っている。また、地元消防団との避難訓練を地域住民と一緒に実施しており、管理者から「利用者の避難は背負う覚悟が必要ですね」と災害への対応の重要性を認識している。利用者の居室には、災害用の懐中電灯を配備し、防災への対策をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の気持ちを尊重し、無理強いしないケアを心がけています。利用者様の呼び方、口調、声の大きさに気をつけています。出来ていない職員には個々に注意をし合うように努めています。 (外部評価) 男性職員が多い事業所であることから、利用者の会話も活動的で明るく活性化している印象がある。利用者が「ここでは安心できる」という自分が認められている気持ちを持っており、職員が丁寧な支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「～してみませんか？」と問いかけるケアを心がけ、それに対してご本人が自己決定出来るよう働きかけをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 決して無理強いせず、何がしたいのか希望を聞き、リビングで集まって話をする方、居室で1人ゆっくりテレビを見る方、本を読む方、個々のペースで一日を過ごして頂けるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人にその日に着る服を選んでもらい、季節にあったその方らしい、おしゃれができるよう支援しています。毎朝きれいにお化粧をされる方もいらっしゃいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳・下膳・洗い物は各自がされており、皆でおしゃべりをしながら、その日に使う食材を切ったり、職員と一緒に調理をしたり、盛り付けをしたりされています。食事は、個々の状態にあった形態で提供しています。	
			(外部評価) 専任職員が調理しており、食事前も職員がゆっくりと利用者に関わることができる。食事の準備から食事を楽しむ時間が始まっており、和やかな時間が流れている。食事が終わると自然に台所に行き洗い物をしている利用者は、自分の役割を持っており、職員の時間をかけた関わりが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師や栄養士よりアドバイスを頂き、量や栄養バランスに注意しています。水分チェック表を記入し一日の水分量を把握しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各自で歯磨きをされています。毎晩就寝前に、義歯の洗浄をして頂くよう声かけを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、利用者一人一人の排泄パターンを把握するよう努めています。定期的に声掛け・誘導を行い、個々の能力を最大限に活かし、最小限の介助で支援しています。	
			(外部評価) 排泄が自立してきた利用者の喜ぶ姿を見て、職員は仕事のやりがいを感じている。また、自立を継続させるために、日々の見守りや健康状態を早期に見極めることの重要性を実感している。利用者一人ひとりの支援方法や対応の違いの難しさを職員間で共有しており、無理をしない排泄の自立支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、利用者一人一人の排便の有無を管理し、看護師の指示のもと、服薬しています。薬だけに頼らぬよう毎日、適度な運動を取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日は決めてはいるが、その日の状態や気分で日を変えたり、時間をずらしたりしています。職員見守りのもと、安全第一で行っております。	
			(外部評価) 事業所には、一般浴槽と要介助用の浴槽がある。利用者が重度の状態になっても入浴を楽しんでもらいたいという事業所の気持ちが感じられる。男性職員が多いため、女性の利用者には同性介護に配慮し、入浴を楽しむことができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に居室へ戻りテレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりできる時間を作っています。毎日、昼からのドラマを見る事を楽しみにされている方もいらっしゃいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬の無いよう名前を確認しながら服薬をしています。個人個人の薬の内容等はファイルし、職員がいつでも見られるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の生活歴や趣味などを把握し、日常に取り入れています。編み物・裁縫・料理・掃除・洗濯など入居前と変わらない生活を送れるよう支援しています。定期的にボランティアを招き、歌や音楽や踊りを見て頂いたりしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、週2回市内のスーパーに買い物に出かけたりしています。職員やご家族と一緒に墓参りに行かれたり、毎月、様々なところへ出かけ、季節を感じて頂いています。	
			(外部評価) 事業所周辺は急な坂道であるため、気軽に散歩ができないが、高台から雄大な景色が楽しめるため、庭や畑、デッキに出るだけの外気浴で、清々しい気分を味わえる。週2回の買い物には、車で利用者と一緒に出かけたり、地域行事へ出かけるなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族に了解を頂き、本人がお金を管理されている方はありますが、基本的には事務所で預かりし、必要時に使って頂くようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族と電話で話をすると、帰宅願望が強くなる方、反対に落ち着く方がいらっしゃるため、状況によって対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎月、利用者様と一緒に、季節の壁絵やカレンダーを作成して飾り、お正月からクリスマスまで季節感ある飾りつけを行い、心地よく過ごして頂ける工夫をしています。利用者様の中には、「捨てるのは勿体ない」と言われ、自分の部屋に飾られる方もいらっしゃいます。</p> <p>(外部評価) ユニットが共用空間でつながっているため、リビングは実際の大きさより広く感じられ、ゆっくりくつろぐことができる。窓からは海に沈む夕日を見ることができる。また、小上がりになっている畳スペースは、ステージに早変わりし、行事を盛り上げている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共同のリビングの他に、廊下にソファや畳敷きのスペースを設け、決まった場所でじっと過ごすのではなく自分の好きところで気の合う人同士で、時にはゆっくりと一人の時間が過ごせるような空間作りを工夫しています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自宅から使い慣れたタンスを持ち込まれたり、ご家族の写真や好きな花や観葉植物を置かれたり、皆で作った作品を壁に飾ったりして、ご本人が居心地良く落ち着いた生活が送れるよう工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドやタンスなどを備え付けてあり、利用者が思い思いの物を持ち込めることができる。部屋の壁に写真や絵を飾ることで利用者の個性に応じた部屋になっている。暖房はオイルヒーターを使っており、火災の心配がなく、利用者の身体に優しい設備となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 食卓の座席を分かりやすくするために名前を書いたり、居室やトイレの場所も分かりやすく、大きく表示するようにして、利用者様が迷う事の無いように工夫をしています。ホーム内はバリアフリーになっており、廊下に手すりを設置し安全を図っています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)なのはな
所在地	伊予市双海町大久保字石の久保甲974番地8
自己評価作成日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長をモットーに炊事・洗濯・掃除など、利用者が今まで当たり前にしてきたことを、お互いに助け合いながら生活を共にしていくことを大切に考え、支援しています。利用者一人ひとりの意見を尊重し、本人らしく穏やかな生活が送れるよう適切なケアを心がけています。山と海に囲まれた恵まれた自然環境の中で、利用者とスタッフで、畑で時期の野菜を育て収穫したり、海辺を散歩したりと季節を感じながら毎日過ごされています。開設2年目、職員も少しずつ経験を積み重ね成長してきました。今後も働きながら学べる職場の環境作りに努めスキルアップを図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設2年目であるが、運営法人は他の事業所の運営経験を活かし、医療的な支援を取り入れ、利用者に落ちつきのある生活が提供されている。近くに医療施設は少ないため、協力医から月2回の往診を受けており、利用者や家族等が安心して過ごせるよう支援している。また、地域に初めて開設された地域密着型サービス施設であるため、管理者は、認知症の理解を広げることや地域の社会資源となる気持ちが高く、地域住民との関わりを持つように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) なのほな

記入者(管理者)

氏名 徳田 茂美

評価完了日 平成25年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>運営理念のもと、住み慣れた地域でゆったりと自分らしい生活が送れるよう、地域に密着した暖かいホームを目指しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が「自分らしく」生きることを事業所の理念として、管理者は職員と共に理念の必要性や重要性を理解し共有している。また、地域とつながることを理念に掲げており、過疎化や高齢化が進む地域を活性化させる取組みの実践をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>地域の小・中学校や公民館などの様々な行事に参加をさせて頂いています。地域の草刈りや道路整備などにも、職員は積極的に参加し、地域の方との交流に努めています。ご近所・顔なじみの方とのつながりが途絶えぬよう支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域で初めての事業であることから、開設当初から地域に「グループホーム」への理解を求めることに力を入れている。また、散歩時の挨拶や道路清掃等を行っていることで、近隣住民との距離が少しずつ距離が縮まっていることを実感している。地域行事の復活へ関わるなど交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々が見学・訪問・相談等を気軽に出来るような環境作りに努めています。実際に来所頂き、認知症の方への理解を深めて頂くと共に、支援の方法を見て頂いています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1度、ご家族・役所関係者・地域関係者の方々に参加を頂き、利用者様の活動報告や消防職員による救命救急・蘇生術の指導などを議題に開催しています。参加者からの意見は、出来る限り運営に活かせるよう取り組んでいます。当日欠席されたご家族には、後日議事録を送付し報告しています。	
			(外部評価) 管理者は、運営推進会議を地域住民に事業内容の理解を得る機会として考え、企画運営を工夫している。また、高齢者福祉や介護の知識を広めるため、講演会や勉強会などを一緒に開催し、地域の社会資源としての役割を担えるよう取り組んでいる。	会議の目的である利用者のサービス向上の実践のために、今後の会議運営には、参加者が利用者として直接的な関わりをもつ時間を取り入れ、出された意見をケアに反映させることを期待したい。職員には会議の運営や進行を経験してもらい、議題にバリエーションを増やす取り組みも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にご参加頂き、ホームの実情や取組みを伝え、意見やアドバイスを頂き協力関係を築くよう努めています。	
			(外部評価) 旧行政区で初めてのグループホームであるため、市担当者からは、社会福祉資源として期待されている。管理者は事業所の役割を理解しており、市担当者とは積極的に連絡を取り、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。さらに地域包括支援センターとの関係づくりにも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束マニュアルを作成し、職員は正しく理解し、ケアに取り組んでいます。夜間以外は玄関は開放し、自由に出入りが出来るようにしています。現在対象者はおりませんが、今後も、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援して行きます。	
			(外部評価) 事業所は、ユニット間がリビングでつながっており、利用者全員を相互の職員で見守ることができる。不安のある利用者にも迅速に対応することができ、職員の関わりにゆとりが感じられる。精神的な拘束にも配慮があり、玄関の施錠を含めて、身体拘束ゼロのケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成し、研修への参加を促し学ぶ機会を作っています。またどのような行為が虐待にあたるのか職員間で話し合う機会を作っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修への参加を促しておりますが、職員の理解度は不十分のため、引き続き勉強する機会を作っていきたい。 現在対象者はありませんが、今後必要となった場合には関係者と連携し支援して行きます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約・改正時には、十分な時間を確保し説明しています。ご本人・ご家族より不安や要望を聞き取り、不明な点が残らぬように、理解・納得をしていただけるよう努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の設置はしていないが、すべてのご家族にハガキにて運営推進会議への参加をお願いし、意見・要望を聞ける機会としています。面会時にも声掛けをして聞き取り、その内容について職員間で話し合い解決するように努めています。 (外部評価) 職員は地域から採用されている人が多く、利用者家族の訪問も多く、スムーズに話し合いが行われている。管理者と職員は話がしやすいよう傾聴する姿勢を心がけている。管理者は、利用者のサービス向上のために、家族等とも協力体制づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>主にスタッフ会を開催し、職員からの意見や提案を聴く機会としています。それ以外にも、代表者・管理者は、職員個々が気軽に意見・提案が出来る環境作りに努めています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、介護現場の経験から「事業所の運営は職員と共に行うべき」と考えており、普段から職員と話し合う時間を大切にしている。男性職員が多い事業所で、意見や提案を反映させており、利用者のサービスの向上のため積極的に取り入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は職員個々の能力や努力を把握し、やりがいのある職場作りに努めています。勤務時間や休日の希望を聞き、出来る限り職員の希望に沿った働きやすい体制になるように努めています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>様々な研修への参加を促し、研修を受けた職員はレポートを回覧し、職員全員に得た知識を伝達するようにしています。また、毎月1回看護師による内部研修を実施し働きながら学べるようにしています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム協会に加入しており、研修に参加しています。研修に行った際、他の事業所の方々と交流させて頂きサービスの向上に取り組んでいます。同じ地域の施設の行事に参加させて頂き、活動内容を学ばせて頂いています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前の段階で、ご本人とご家族にホームを見学して頂き、会話する中で、それぞれの不安や要望を聞き取るようにしています。入居後も、ご本人の声に耳を傾け、安心して生活が送れるよう関係作りに努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の要望・不安に思う事を親身になって聞くようにしています。ご家族とのコミュニケーションを大切にし、遠慮なくお話をしていただけるような雰囲気作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に聞き取った情報や医療関係者、担当ケアマネからの情報を基に、ご家族を交え担当者会議を開催し、いま必要としている支援内容を見極め支援しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除・家事・畑仕事など、利用者様が出来る事をして頂き、出来ない事を職員と一緒にやっています。利用者様同士が助け合う場面も見られ、生活を共にする者同士、良い関係が築けています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) かかりつけ医の受診など、ご家族に協力をお願いし、職員と共に本人を支えていく関係を築いています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のお祭りや文化祭などに参加し、顔なじみの方との交流を支援しています。ホームの近くに自宅のある方は散歩を兼ねて、家へ帰り、ご近所の方とお話をされています。積極的に地元の方が多く集まる場所へ参加をしています。 (外部評価) 事業所の近くに自宅のある利用者は、自宅を訪れるなど馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。自宅が遠い利用者は、知人や友人の訪問が少ないため、事業所周辺が馴染みの場となるように、買い物や散歩の機会を多く持ち、利用者の新しい関係づくりを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の後の洗い物が出来ない方の代わりにやったり、洗い物が出来ない方は、食器を拭いたり利用者同士がお互いに支え合えるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も必要に応じて連絡を取ったり、ご家族と会った時にはその後の様子を伺うように心掛けています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家庭の延長をモットーに、利用者一人ひとりが今までのどりの暮らしが出来るよう、無理強いせず本人の希望を優先し支援しています。 (外部評価) 職員は、理念の一つである「自分らしく」を実現させるために、利用者の好きなことや趣味を始め生活歴を聞き把握している。また、引き継ぎ時に話したり、申し送り書に記入したりして、職員間で共有している。職員が思いや意向を把握し、サービスに反映させており、利用者の安心した表情がみられる。	職員はキャリアを積み上げて来ている時期のため、職員間で利用者情報の共有化を再確認することが求められる。利用者の生活歴を職員が書き出し、それを全員で確認し合うなどの取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前よりセンター方式を利用して聞き取りをし、入居後も気づきやご家族とのお話の中で得た新しい情報も引き続き記録していき、皆がいつでも見られる場所に保管し、職員間で共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 注意深く観察することを心がけ、今まで出来たことが難しくなったり、状態の変化がないか気づけるよう努めています。変化等が見られる場合は担当者会議を利用し、職員間で話し合い、その方の現状を把握するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>担当者会議やミーティングを利用し、利用者の現状について意見を出し合い、ご家族の意見・要望を参考にし作成しています。目標達成に向けて、毎月のモニタリングも行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ケアプランは、管理者や計画作成担当者を中心に立案されケア会議を開催し作成している。また、家族や利用者の希望をできるだけ取り入れている。担当職員の振り返りをもとにモニタリングを行い、ケアプランの見直しをしている。</p>	<p>介護日誌から抜き出したケアプランに沿った内容でモニタリングを行い、その達成率を確認するなど客観性のある取組みを望みたい。話し合いを重視した現行のモニタリングに記録による客観性を付加することで、モニタリングの整合性が向上することに期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>開設当時に比べ、変化や気づきの記入は出来てきているが、不適切な表現が見られる為、個々に指導をしています。記録の重要性については外部研修へ参加を促すなど引き続き指導が必要である。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>デイサービスなどを利用できないため、定期的にボランティアの方を招き、歌や踊りを披露して頂いている。利用者個々の得意な事、好みを把握し職員間で役割分担をし、やりたいことが出来るよう対応しています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>恵まれた自然環境を活かし、季節を感じながら、山菜取りや海辺を散歩したり、この地域ならではの楽しみを、取り入れています。地域の方から頂いた時期の野菜を利用者様が、調理の下ごしらえをして下さったりしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科医月2回往診、歯科医は必要に応じて往診をお願い しています。定期的な外科等の受診は、出来るだけご 家族にご協力を頂いています。緊急時は嘱託医の指示 のもと適切な医療が受けられるよう支援しています。  (外部評価) 月2回事業所の協力医の往診があるため、利用者のほ とんどがかかりつけ医としている。近くに医療機関が 少ないため、日常的な健康管理は看護職員が行ってお り、早期に適切な医療機関を受診できるよう支援して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は24時間オンコール体制を取っており、緊急時 すぐ駆けつけられるようにしています。職員は利用者 様の異変に気付いた時は、看護師に報告し適切な看 護・受診が受けられるよう支援しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、医療関係者と連携し、ご家族了解のもと情 報交換をして、介護支援専門員を中心に、退院を含め 今後も方向性について話合うようにしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在対象者1名病院を退院後ホームに戻られる。看取 りとなる可能性があり早い段階で嘱託医を交え、ご家 族の意向・要望を確認し今後の治療内容・ケア方針に ついて話し合いました。 看護師を中心に出来る限りのケアを提供して行きたい と考えています。  (外部評価) 家族の強い希望で、現在終末期ケアに取り組んでい る。医療的なケアは看護職員が支援しながら、かかり つけ医の協力を得て実践している。医療関係者との連 携体制の重要性を再認識しており、高齢者ケアの難し さとやりがいを感じながら支援をしている。	職員は見守ることの難しさ大変さを実感しており、 また不安も持ちながら支援している。事業所ではター ミナルケアについて会議を重ねているが、他の事業所 などの体験談を聞くことや介護職員の向き合う心構え についても話し合いを行うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも対応できるよう努めています。消防署による緊急時の応急処置・心肺蘇生術等の勉強会を実施するなどしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、様々な事態を想定し年2回消防防災訓練を実施しています。本年度は6月に消防署、12月に地元消防団の協力のもと実施しました。災害時の職員の役割表・連絡網を作成し、避難時の非常持ち出し袋や水や米などの備蓄も徐々に行っています。 (外部評価) 消防の立ち入り検査も受け、細かなことも改善を行っている。また、地元消防団との避難訓練を地域住民と一緒に実施しており、管理者から「利用者の避難は背負う覚悟が必要ですね」と災害への対応の重要性を認識している。利用者の居室には、災害用の懐中電灯を配備し、防災への対策をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対する呼び方、声掛けの口調や大きさなどに注意しています。トイレ介助時にトイレの戸を開けっ放しにしないよう気をつけています。職員間で注意し合うように努めています。 (外部評価) 男性職員が多い事業所であることから、利用者の会話も活動的で明るく活性化している印象がある。利用者が「ここでは安心できる」という自分が認められている気持ちを持っており、職員が丁寧な支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声かけをして、本人の希望・要望を聞き取り、対応しています。自己決定の表現が不十分な方には、表情や行動を観察するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1つの作業をしても、1人ひとりのペースを大切にやりたくなければ別の事をして頂いたり、決して焦らす事の無いよう気をつけています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 可能な方には、その日に着る服を選んでもらっていますご家族に協力を頂き、季節ごとに衣服を入替え、時期に合ったおしゃれが出来るよう支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳・下膳が可能な方はご自分で洗い物をされ、洗い物が出来ない方は座って食器を拭いたり、その日に使う食材を切ったり、調理・盛り付けのお手伝いをお願いしたりと、利用者個々の力を活かしあっています。食事は粗刻み・小刻みと個々の状態にあった形態で提供しています。	
			(外部評価) 専任職員が調理しており、食事前も職員がゆっくりと利用者に関わることができる。食事の準備から食事を楽しむ時間が始まっており、和やかな時間が流れている。食事が終わると自然に台所に行き洗い物をしている利用者は、自分の役割を持っており、職員の時間をかけた関わりが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師や栄養士からアドバイスを頂き、量や栄養バランスに注意して提供しています。水分チェック表を記入し、一日の水分量を把握し、お茶では水分補給が出来ない方にはコーヒーなど味を変えて提供し水分確保に努めています。特に、糖尿病の方には、栄養士から適切な食事量を指導して頂きました。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、可能な方はご自分で歯磨きをされています。個々の状態に合わせ、声掛け・見守り・介助を行い口腔ケアをしています。義歯の方は、每晚就寝前に洗浄をしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めています。声かけ・誘導を行い出来る限り失禁をなくすよう努めています。夜間は、個々に合わせたパットを使用したり、ポータブルトイレを設置しています。	
			(外部評価) 排泄が自立してきた利用者の喜ぶ姿を見て、職員は仕事のやりがいを感じている。また、自立を継続させるために、日々の見守りや健康状態を早期に見極めることの重要性を実感している。利用者一人ひとりの支援方法や対応の違いの難しさを職員間で共有しており、無理をしない排泄の自立支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、排便の有無をチェックし、看護師の指示のもと対応しています。薬だけに頼らず、自然排便があるよう毎日適度な運動も取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日を決めてはいるが、その日の状態や気分に合わせて、日を変えたり時間をずらしたりしています。職員の見守りのもと、1人でゆっくり入ったり、気の合う同士で誘い合って入られています。	
			(外部評価) 事業所には、一般浴槽と要介助用の浴槽がある。利用者が重度の状態になっても入浴を楽しんでもらいたいという事業所の気持ちが感じられる。男性職員が多いため、女性の利用者には同性介護に配慮し、入浴を楽しむことができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 共同のリビングで一日中過ごすのではなく、自由に好きな時間に居室でテレビを見たり、横になったり出来る時間を作っています。夜間の不眠については、嘱託医の指示のもと支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬の無いよう名前を確認しながら、服薬して頂いています。利用者様一人ひとりの薬の内容等は個々にファイルしており、職員がいつでも確認できるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味を把握し、日常に取り入れています。畑仕事・家事・炊事・裁縫といった、入居前と変わらない暮らしが送れるよう支援しています。また、定期的にボランティアを招き、歌や音楽や踊りを楽しんでいただいています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所を散歩されるついでに自宅へ立ち寄ったり、ご家族と一緒に遠方へ外出できるよう支援しています。地域の行事に参加したり、週2回市内のスーパーへ買い物に出かけたりしています。	
			(外部評価) 事業所周辺は急な坂道であるため、気軽に散歩ができないが、高台から雄大な景色が楽しめるため、庭や畑、デッキに出るだけの外気浴で、清々しい気分を味わえる。週2回の買い物には、車で利用者と一緒に出かけたり、地域行事へ出かけるなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は行っておりませんが、必要時にご家族に連絡を取っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の応対が難しい方が多い為、手紙のやり取りを支援しています。ご家族に手紙を書いて用事を頼んだり、ご自分で作った俳句を書いて、友人に出したりされています。返事が届くと大変喜ばれます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の壁絵を作成したり、お正月からクリスマスまで季節感ある飾りつけを、利用者様と一緒にいたり、廊下に様々なお花を飾ったり、居心地良く過ごして頂けるよう工夫をしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットが共用空間でつながっているため、リビングは実際の大きさより広く感じられ、ゆっくりくつろぐことができる。窓からは海に沈む夕日を見ることができる。また、小上がりになっている畳スペースは、ステージに早変わりし、行事を盛り上げている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共同のリビングの他に、畳敷きのスペースを設け冬場には堀コタツを出したり、廊下に椅子を置いたり、決まったところでじっとしているのではなく、自分の好きな場所で気の合う人同士で、時にはゆっくりと一人の時間が過ごせるような空間作りをしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の写真を飾ったり、観葉植物を飾ったり、入居前から自宅で使っていたお布団などを持参して頂き、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ベッドやタンスなどを備え付けてあり、利用者が思い思いの物を持ち込めることができる。部屋の壁に写真や絵を飾ることで利用者の個性に応じた部屋になっている。暖房はオイルヒーターを使用しており、火災の心配がなく、利用者の身体に優しい設備となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>車椅子使用の方や歩行不安定の方が多いため、廊下を幅広く設けており、利用者同士の接触がないよう安全を図っています。居室が分からなくなる方は、名前を大きくしたり、目印を付けたりの工夫をしています。</p>	